

日本の水運開発史上最古の記念碑

笠神の文字岩



指定区分	国指定史跡
読みかた	かさがみのもじいわ
所在地	高梁市備中町平川
指定年月日	昭和16年2月21日
解説	高梁川の支流である成羽川の笠神の瀬にある鎌倉時代の河川交通の遺跡。徳治2年(1307)の航路が完成した旨の碑文があるが、現在は、新成羽川ダム建設により湖水面下にあり、左岸県道沿いの笠神文字岩展望公園にレプリカがある。
アクセス方法	JR備中高梁駅から車40分
公開状況	自由
設備	
備考	写真の1枚目と2枚目はダムの水をひいたときの写真です。普段は水面下にあります。

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定史跡
ぶんかざいめい (文化財名)	笠神の文字岩
よみかた	かさがみのもじいわ
しょざいち (所在地)	高梁市備中町平川
していたひ (指定した日)	昭和16年2月21日
せつめい	700年前に人の手によって川を開(ひらく)という大工事(だいこうじ)が行われ、その完成(かんせい)を記念(きねん)してたてられた石碑(せきひ)です。現在(げんざい)はダムが建設(けんせつ)されて川底(かわぞこ)に沈(しず)められています。すぐそばの公園(こうえん)にレプリカがつくられています。写真(しゃしん)はダムの水をひいたときのものです。